

第4次呉市長期総合計画後期基本計画の改定（令和2年度版）について（報告）

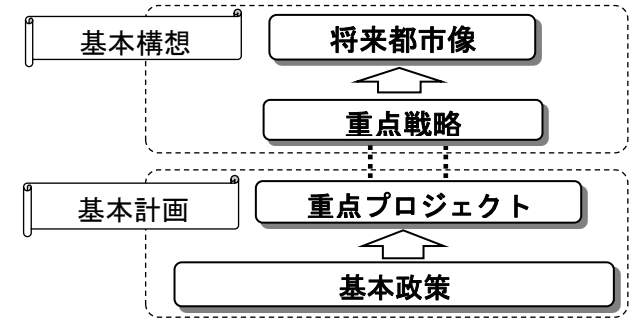
1 後期基本計画改定の趣旨

後期基本計画は、基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、平成28年度から令和2年度までの5年間で取り組む「重点プロジェクト」や、その他市政全般に係る「基本政策」の方向性及び代表的な施策を明示しています。

また、本計画では、呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の理念を盛り込むとともに、合併建設計画を踏まえた市域の一体感の更なる醸成、過疎地域の日常生活基盤の維持・向上を図り、地域の特色を最大限に活かしたまちづくりを展開していくこととしています。

今回の改定は、平成30年7月豪雨災害からの着実で力強い復興や、女性・若者・高齢者の誰もが呉市に住み続けたい、呉市を訪れてみたいと思う魅力的なまちの実現に向けて取り組む、令和2年度当初予算を踏まえたものです。

第4次呉市長期総合計画のイメージ



2 令和2年度当初予算を反映したローリング

(1) 重点プロジェクトに追加した事業等（新規18事業、拡充11事業）

○重点戦略1「人づくり」

- ・(新) 子育て支援手続きWeb※¹（ウェブ）申請化 50万円
- ・(新) 天応中学校の仮移転の解消 8,720万円
- ・(新) オリンピックを契機としたスポーツ参加意識の醸成 650万円
- ・(新) 呉高等学校特別教室の空調設備の増設 2,420万円
- ・(新) 被保護者※²健康管理支援事業 1,064万円
- ・(拡) 保育サービスの充実（病児・病後児保育事業の充実、保育士の人材確保等） 1億8,515万円
- ・(拡) 介護予防の充実（訪問・通所サービス等） 8,425万円
- ・(拡) 目指せ！健康寿命日本一プロジェクト（健診の受診促進、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施） 2億3,450万円
- ・(拡) 地域おこし協力隊の受入れ推進 2,879万円

※1 Web：P3参照

※2 被保護者：生活保護法に基づく保護を受けている者

○重点戦略2「地域づくり」

- ・(新) 災害時の協力井戸共助利用の推進 103万円
- ・(新) 土木施設・農業用施設の緊急自然災害防止対策 8億6,040万円
- ・(新) 合葬式墓地の整備 270万円
- ・(新) 新休山隧道配水池の整備 5,500万円
- ・(新) 避難情報等の一斉電話伝達サービスの導入 1,578万円
- ・(新) 災害時の備蓄食料・備蓄品の充実 1,913万円
- ・(新) 消防通信システムの充実・消防力の強化 337万円
- ・(新) 災害公営住宅の整備 9億6,250万円
- ・(新) 農業基盤整備の推進（ほ場整備） 6,450万円
- ・(拡) 被災地（天応地区・安浦地区）での道路・公園の整備 1億1,080万円
- ・(拡) 住宅・建築物の耐震化促進（ブロック塀等の安全対策等） 4,559万円
- ・(拡) 産地育成・地産地消の推進（フルーツアイランド事業等） 700万円
- ・(拡) 企業立地の推進（呉市企業立地条例に基づく助成等） 7億円
- ・(拡) 大和ミュージアムの魅力向上事業（15周年記念事業等） 1,717万円

○重点戦略3「都市づくり」

- ・(新) 情報通信格差解消のための光通信回線整備 4,980万円
- ・(新) スマートフォンを利用した納税・納付環境の整備 一万円
- ・(新) 子育て世帯を対象とした安芸灘大橋利用助成 700万円
- ・(新) 外国人住民の相談体制の強化（総合相談窓口の開設等） 1,354万円
- ・(拡) 呉駅周辺地域総合開発の推進（呉駅周辺を起点としたスマートシティ※³の実現に向けた取組等） 4,500万円
- ・(拡) 広島呉道路の4車線化の整備促進（アクセス道路の整備等） 1,000万円

※3 スマートシティ：P9参照

(2) ローリング後の事業数・事業費 (H28～R2)

(単位：億円)

- ・ローリングの結果、計画期間中の概算事業費全体額は約 469 億円
- ・令和元年度末現在の執行額は約 359 億円

基本目標	事業数						事業費		進捗状況	
	追加事業	既存事業				合計	H28～R2 (①)	内R2年度	内H28～R元年度	
		拡充	継続	完了	小計				執行額 (②)	全体進捗率 (②/①)
人づくり	5	4	35	7	46	51	121.0	22.4	86.5	71.5%
地域づくり	9	5	50	4	59	68	221.0	64.1	156.8	71.0%
都市づくり	4	2	18	10	30	34	126.7	10.1	115.6	91.2%
合計	18	11	103	21	135	153	468.7	96.6	358.9	76.6%

3 令和元年度中に策定した計画

- ・呉市復興計画（地区計画）（令和元年9月策定）
- ・みんなでのち支える呉プラン（呉市自殺対策計画）（令和元年12月策定）
- ・呉市上下水道ビジョン後期経営計画（令和元年12月策定）
- ・第4次呉市市民協働推進基本計画（令和2年3月策定）
- ・第2期呉市子ども・子育て支援事業計画（令和2年3月策定）

4 目指すべき姿（目標）の修正

【重点戦略2】地域づくり ～地域の魅力の更なる創出～ 第2項 産業競争力の更なる強化

修正項目	修正前	修正後	修正理由
新たな産業団地の立地企業数（累計）	25社	28社	令和元年度改定で18社から25社に上方修正した目標値を達成し、今後も増加が見込まれるため、目標値を上方修正する。

【重点戦略2】地域づくり ～地域の魅力の更なる創出～ 第3項 産業を支える人材の確保・育成

修正項目	修正前	修正後	修正理由
実践型地域雇用創造事業による就職者数（累計）	774人	873人	令和元年度改定で689人から774人に上方修正した目標値を、令和2年度中に上回ることが見込まれるため、目標値を上方修正する。

【重点戦略3】都市づくり ～都市機能の強化・充実～ 第2項 魅力ある住生活環境の確保

修正項目	修正前	修正後	修正理由
定住サポートセンターへの問合せ件数（累計）	1,500件	1,700件	令和元年度において定住サポートセンターへの問合せ件数が1,528件と目標を上回り、今後も増加が見込まれるため、目標値を上方修正する。

5 目標達成状況等

<評価基準>

評価	K P I 指標の令和元年度末までの達成率
◎	全ての項目で80%を超えている
○	一つ以上の項目で80%を超えている
△	80%を超える項目がない
—	達成率が算出できないもの

※後期基本計画の計画期間5年のうち4年終了時点のため、達成目標は80%を基準とする。

【重点戦略1】人づくり ～ 市民主体のまちづくりの展開 ～

第1項 未来を担う人材の育成

重点的に取り組む事業									
(1) 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援（不妊治療の支援，子育て支援センターの充実，子育て支援アプリの導入など） (2) 健やかに育つ子育て環境の整備（保育サービスの充実，放課後児童会の充実，子どもの居場所づくり，子育て支援手続きW e b [*] （ウェブ）申請化など） (3) 心豊かでたくましい「呉の子ども」を育てる教育の推進（小中一貫教育の推進，特色ある呉の教育の推進，天応中学校の仮移転の解消，オリンピックを契機としたスポーツ参加意識の醸成など） (4) 高等学校教育の充実（呉高等学校特別教室の空調設備の増設など）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合	小学生：88.8→90	%	90.9	90.3	89.9	88.4	—	—	
	中学生：88.4→90	%	86.5	87.0	86.2	86.3	—	—	
将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合	小学生：93.4→95	%	91.6	93.4	93.7	92.6	—	—	
	中学生：78.8→80	%	76.1	78.6	78.8	77.8	—	—	
評価	現状								
—	・「学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合」について，小学生は前年を下回り，中学生は前年とほぼ同値であった。また，小学生，中学生とも目標値に届かなかった。※ 県内平均値（小学生：87.8%，中学生：87.2%） ・「将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合」について，小学生，中学生とも前年を下回り，目標値には届かなかった。※ 県内平均値（小学生：90.3%，中学生：75.5%）								
令和2年度以降の方向性									
・子育て世代包括支援センター「えがお」において妊娠から子育てまでの包括支援をワンストップで行うことで多様なニーズに対応するとともに，今年度は「子育て支援手続きW e b（ウェブ）申請化」による利便性の向上を図るための「手続ガイド」を導入するなど，子育て支援体制の更なる充実を図る。 ・地域の子どもたちが安心して過ごせるよう食事の提供や学習の支援など，子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体を支援し，地域全体で子育てを支援する環境づくりを市全体へ展開していく。 ・小中一貫教育の取組を更に推進するとともに，天応中学校と天応小学校を新たに義務教育学校（小中一貫教育校）として，天応小学校敷地内に整備する。									

※W e b：インターネット上で用いられている，文字や画像などを一体化した文書の公開・閲覧システムの一つ

第2項 市民の健康づくりの推進

重点的に取り組む事業									
(1) 健康づくりを支える地域ぐるみでの運動習慣の定着（地域に根ざす健康づくりの推進など） (2) 恵まれた医療環境等を活かした生活習慣病予防・介護予防対策（地域包括ケアシステムの推進，被保護者健康管理支援事業，目指せ！健康寿命日本一プロジェクト（健診の受診促進，高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施），介護予防の充実など） (3) 地域医療体制の確保（救急医療体制の確保，骨髄移植等支援事業など）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
健康であると感じる市民の割合	※H26 72.3 → 80	%	—	—	—	71.8	—	—	—
健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均※） ※介護保険の要介護度2～5を自立していない期間として算定	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加 ※H27 男性 平均寿命79.94年 健康寿命79.00年 女性 平均寿命85.78年 健康寿命83.44年	男性平均寿命(年)	81.05	80.13	R2.9 公表予定	—	—	—	—
		男性健康寿命(年)	79.96	79.13		—	—	—	
		女性平均寿命(年)	86.97	87.39		—	—	—	
		女性健康寿命(年)	84.42	84.96		—	—	—	
特定健康診査の受診率（国民健康保険加入者）	25.3 → 42 (H30年度改定で45から42に変更)	%	24.7	28.1	29.6	R2.11 公表予定	—	—	—
評価	現状								
△	<ul style="list-style-type: none"> 健康であるとを感じる市民の割合は71.8%となり，前回調査（72.3%）を下回り，目標値に8.2ポイント届かなかった。 平成29年度の健康寿命は，平成27年度と比較して男女とも延伸しているが，健康寿命の増加分は，平均寿命の増加分を下回っている。 平成30年度呉市国民健康保険特定健康診査受診率は29.6%であり，前年度（28.1%）と比べて1.5ポイント上昇し，制度開始の平成20年度（16.3%）と比較して13.3ポイント増加した。 								
令和2年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる環境を整えるため，特定健診・がん検診の受診促進や運動習慣の定着を図るとともに，データヘルス※¹による効果的な保健事業と介護予防を一体的に実施していく。 高齢者が住み慣れた地域で生きがいや役割を持って生活することができるよう，サロン等の通いの場の提供など，自ら積極的に介護予防に取り組む環境を整えていく。 認知症などの支援や介護が必要な方及びその家族の生活の質を維持・向上させるため，地域全体で支援する地域包括ケアシステム※²などの医療・介護事業者等の多職種が連携する体制を強化・充実していく。 									

※1 データヘルス：健康・医療情報等を分析・活用して行う効果的かつ効率的な保健事業

※2 地域包括ケアシステム：医療，介護，予防，住まい，生活支援などのサービスが継続的・一体的に提供され，住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる地域の支援体制

第3項 地域協働によるまちづくりの推進

重点的に取り組む事業									
(1) 協働によるまちづくりをリードする担い手の育成（まちづくりセンターの指定管理者制度移行，市民協働センターの運用など）									
(2) 地域住民によるまちづくり活動への支援（地域まちづくり計画に基づく地域活動の支援，市民まち普請事業の推進など）									
(3) 地域外からの人材の確保・活用（地域おこし協力隊の受入れ推進）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
地域活動に参加している市民の割合	※H26 38.6 → 60	%	—	—	—	37.7	—	—	
地域活動に参加している市職員の割合	38.9 → 60	%	44.3	44.1	41.1	32.6	—	—	
呉市に愛着を感じている市民の割合	※H26 69.7 → 80	%	—	—	—	79.3	—	—	
まちづくりサポーターの人数（累計）	16 → 28（12増）	人	18	21	25	24	8	66.7%	
市民まち普請事業の延べ実施件数（累計）	73 → 110（37増）	件	82	88	88	90	17	45.9%	
評価	現状								
△	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に参加している市民の割合は，37.7%と前回調査（38.6%）を下回り，目標値に22.3ポイント届かなかった。 地域活動に参加している市職員の割合は，32.6%となり前年（41.1%）より8.5ポイント下がった。 呉市に愛着を感じている市民の割合は，79.3%と前回調査（69.7%）を上回り，目標値と近似となった。 地域内の各種団体の支援活動を行うまちづくりサポーターは，2人が退任され1人を新たに委嘱した。 市民まち普請事業は，2件の活用により累計17件となった。 								
令和2年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 地域の個性や特色に応じたまちづくりを行っていくため，学生や外国人の参画を促進するとともに，地域おこし協力隊の更なる活用や多様な形で地域に関わる関係人口など，市外からの新たな担い手を創出していく。 地域おこし協力隊や関係人口の創出による新たな担い手の受入れを促進するため，現地でのつながりをつくる場の構築や地域の情報収集などをサポートする人材を育成し，スムーズな受入環境を整備していく。 同じ目的を持ってまちづくり活動を行う個人・団体が持つ情報や知識を活かすための連携を促進するとともに，地域が希望するまちづくりが実現できるよう，引き続き，地域自らが企画・立案をし，実施する特色ある取組を支援していく。なお，現在市内において「農泊」や町全体を学びの場とする「島まるごとユニバーシティ」といった取組が起こっている。 									

【重点戦略2】 地域づくり ～ 地域の魅力の更なる創出 ～

第1項 安全・安心な生活環境の確保

重点的に取り組む事業										
(1) 地域防災力・防犯力の強化・充実（消防団詰所の整備，自主防災組織の結成・育成の促進，被災地（天応地区・安浦地区）での道路・公園の整備など） (2) 災害防止施設の整備，浸水対策の強化等（雨水対策，急傾斜地崩壊対策，避難路の確保，浸水対策，土木施設・農業用施設の緊急自然災害防止対策など） (3) 市民が安心して利用できる安全な公共インフラの整備（道路・橋りょう等の維持管理の充実，道路整備，新休山隧道配水池の整備など） (4) 市民の安全・安心を守るための危機管理機能の強化（防災・防犯情報メールの配信，中央公園防災整備，避難情報等の一斉電話伝達サービスの導入，災害時の備蓄食料・備蓄品の充実，災害公営住宅の整備など）										
目指すべき姿(目標)										
項目		目標(H27→R2)		単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率
災害（山・がけ崩れ）に不安を感じる市民の割合		※H26 51.3 → 45		%	—	—	—	60.5	—	—
自主防災組織の活動カバー率		81 → 91		%	82	84	84	85	—	—
評価	現状									
△	・災害（山・がけ崩れ）に不安を感じる市民の割合は60.5%となり，前回調査（51.3%）と比較して9.2ポイント上昇し，目標値には15.5ポイント届かなかった。 ・自主防災組織の活動カバー率は85%となり，平成27年度（81%）と比較して4ポイント上昇した。									
令和2年度以降の方向性										
・自主防災組織の結成・育成や消防団への加入を促進するなど，地域防災力の充実・強化を図っていく。 ・自主防災組織や防災リーダー，消防団が連携して避難訓練や避難経路の確認を実施することにより，地域の防災意識を向上させ，実践的な取組へとつなげていく。 ・急傾斜地崩壊対策施設等の着実な整備を進めていく。 ・通常時における河川等の計画的かつ適切な維持管理を推進することにより，集中豪雨や台風などによる浸水被害の防止を図っていく。 ・早期の避難行動を促すため，気象情報や避難情報，降雨量や河川の水位情報などの防災関連情報の伝達方法の見直しと情報の充実を図り，いつでもどこでも分かりやすく情報を入手できる環境を実現していく。 ・道路・河川などの災害復旧事業を実施するとともに，避難情報等の一斉電話伝達サービスの導入など，防災力の向上に向けた取組を進めていく。 ・狭あい区間の道路拡幅や両側歩道の整備など，安心して利用できる安全な公共インフラの整備を進めていく。										

第2項 産業競争力の更なる強化

重点的に取り組む事業									
(1) 特色ある資源を活かした農水産業の振興（有害鳥獣対策の充実，農地保全・遊休農地解消の推進，産地育成・地産地消の推進，農業基盤整備の推進（ほ場整備）など） (2) ものづくり産業の振興（企業立地の推進（呉市企業立地条例に基づく助成等），中小企業の新製品・新技術の開発支援，地域産業の活性化支援，中小企業人材育成事業など） (3) 観光・商業振興によるにぎわいの創出（商業施設等の活性化支援，大和ミュージアムの魅力向上事業（15周年記念事業等），観光資源のブラッシュアップなど）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
新たな産業団地の従業員数（苗代・阿賀マリノ・天応2期）（累計）	1,142 → 1,700（558増）	人	1,181	1,164	1,325	1,416	274	49.1%	
新たな産業団地の立地企業数（累計）	8 → 25（17増） （R元年度改定で18から25に変更） （R2年度改定で25から28に変更）	社	15	19	21	25	17	100.0%	
新技術等の開発件数及び新サービス・システムの開発件数（インキュベーション施設）（累計）	178 → 235（57増）	件	183	183	185	186	8	14.0%	
呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数	※H26 3 → 8	品	—	—	—	4	—	—	
年間入込観光客数	336 → 340	万人	336	332	274	R2.7 公表予定	—	—	
大和ミュージアム来館者の市内回遊率	15.1 → 18	%	16.5	16.3	13.6	R2.5 公表予定	—	—	
評価	現状								
○	<ul style="list-style-type: none"> 産業団地の従業員数は，苗代工業団地及び阿賀マリノポリス地区に立地した企業の新工場稼働に伴い従業員数は増加しているが1,416人と目標値の約5割となっている。 産業団地への立地企業数は，苗代工業団地が完売となるなど順調に増加したため，令和元年度改定で目標値を18から25に上方修正した。令和元年度末の実績は25企業となっている。 新技術等開発件数及び新サービス・システムの開発件数については，186件であり目標値には届いていない。 呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数は4品目（みかん，ちりめんいりこ，かき，レモン）となり，前回から1品目（レモン）増えたが，目標値には届かなかった。 平成30年の年間入込観光客数は，平成30年7月豪雨災害の影響のため274万人と大きく減少した。 								
令和2年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携した先端技術の導入による生産性向上や商品・サービスの高付加価値化を支援するなど，ものづくり産業の更なる振興を図っていく。 企業立地助成の対象にサテライトオフィスを追加するなど，企業誘致の更なる推進を図っていく。 観光推進のための新たな体制の構築や観光振興計画の策定により，ブランディングとマーケティングに基づいて，地域全体の所得を向上させることができるような観光の振興を推進する。 									

第3項 産業を支える人材の確保・育成

重点的に取り組む事業									
(1) 農業・漁業への就労支援（新規農業就業者への支援，新規漁業就業者への支援） (2) ものづくり人材の育成支援（実践型地域雇用創造事業の推進など） (3) サービス産業を担う人材の育成支援（福祉医療人材の確保・養成，リノベーションまちづくり事業） (4) 創業・起業へのチャレンジ支援（創業支援事業の推進，起業家支援事業） (5) 障害者等の就労支援（障害者就労支援体制の充実）									
目指すべき姿（目標）									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
新規農業就業者数（累計）	13 → 28（15増）	人	15	16	17	17	4	26.7%	
新規漁業就業者数（累計）	14 → 29（15増）	人	18	22	22	22	8	53.3%	
実践型地域雇用創造事業による就職者数（累計） ※事業主や求職者に向けた各種講座や就職説明会などの開催により，雇用の促進を図る事業（厚生労働省委託事業）	364 → 774（410増） （H30年度改定で568から689に変更） （R元年度改定で689から774に変更） （R2年度改定で774から873に変更）	人	460	594	753	R2.7 公表予定	389	94.9%	
評価	現状								
○	<ul style="list-style-type: none"> 新規農業就業者は，農地の確保ができない，技術習得に一定期間を要するなど，短期間での安定した収入の確保が難しいことから，令和元年度の新規就業者がなかった。 新規漁業就業者は，平成29年度に達成率が5割を超え順調に伸びていたが，漁獲量の減少により令和元年度は新規就業者がなかった。 実践型地域雇用創造事業による就職者数は，順調に増加したため，目標値を2度改定し，568人から774人に上方修正した。平成30年度末の実績は753人と順調に伸びている。 								
令和2年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> ものづくり産業を将来にわたり維持していくこと，イノベーション^{※1}を継続的に創出できる環境を整備することを目指して，地域が有する資源を核とした事業の創出や地域産業を担う人材育成の場の形成などの取組を支援していく。 空き店舗や古民家などの遊休資産のリノベーション^{※2}等を行う民間のまちづくり事業を連鎖的に進めるため，人材発掘と併せて資金調達を支援していく。 地域産業の活性化と多様化を図るため，市役所・民間企業・関係団体など地域全体で，創業・起業を促進する機運を醸成するとともに，クラウドファンディング^{※3}を積極的に活用するなど，資金調達や経営などを支援する体制の充実を図っていく。 障害者の就労について，ハローワークなど関係機関と連携して，障害者と事業主双方に対し，就職準備段階から職場定着まで一貫した支援に取り組んでいく。 									

※1 イノベーション：これまでの発想や手法にとらわれることなく，新しいアイデアで，モノや情報，仕組みなどを組み合わせることにより，新たな価値を創造していくこと。

※2 リノベーション：建物が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生させること。

※3 クラウドファンディング：特定の目的を達成するために必要な資金をインターネット等を通じて不特定多数の人から調達する仕組み

【重点戦略3】 都市づくり ～ 都市機能の強化・充実 ～

第1項 高次都市機能の強化・充実

重点的に取り組む事業									
(1) 都市ブランド力の向上（呉市中心部回遊性向上機能の整備(青山クラブの活用等)、呉駅周辺地域総合開発の推進、情報通信格差解消のための光通信回線整備など） (2) 高速交通体系を結ぶ幹線道路網の整備促進（呉平谷線の整備促進、広島呉道路の4車線の整備促進（アクセス道路の整備等）など） (3) 拠点となる公共施設の整備（消防局・西消防署新庁舎の整備、スマートフォンを利用した納税・納付環境の整備など） (4) 市民生活に欠かせない公共交通の維持・確保（基幹バス路線・生活バス路線・地域主導型交通サービスの運行支援など）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
休山新道の所要時間（西口交差点～東口交差点）	約7分 → 約3分	分	7	7	3	3	—	100.0%	
十分な都市機能が備わっていると思う市民の割合	※H26 13.6 → 20	%	—	—	—	10.3	—	—	
交通体系に対する市民の満足度	※H26 16.2 → 25	%	—	—	—	17.6	—	—	
評価	現状								
○	・休山新道については、4車線化工事が平成30年度に完了し、所要時間の短縮が図られた。 ・十分な都市機能が備わっていると思う市民の割合は10.3%となり、前回調査（13.6%）と比較して3.3ポイント低下し、目標値には9.7ポイント届かなかった。 ・交通体系に対する市民の満足度は17.6%となり、前回調査（16.2%）と比較して1.4ポイント上昇したが、目標値には7.4ポイント届かなかった。								
令和2年度以降の方向性									
・呉駅周辺を起点として、次世代モビリティ ^{※1} 導入に向けた調査・検証や、MaaS ^{※2} 導入に向けた環境整備、アーバンデザインセンター ^{※3} 設立に向けた準備など、スマートシティ ^{※4} の実現に向けた取組を推進し、新たな魅力ある都市を創造していく。 ・コンパクトで持続可能なまちづくりを進めていくとともに、都市機能や居住が集積した都市拠点と地域拠点を結ぶ、道路ネットワークの整備を推進していく。 ・公共交通体系の再編や基幹バス・生活バス路線の運行支援、自家用有償運送等の地域主導型交通サービスの運行の検討などにより、将来にわたり持続可能な交通体系を維持していく。									

※1 次世代モビリティ：AI技術等を活用した自動運転、通信機能等を備えた移動手段

※2 MaaS：Mobility as a Serviceの略。バスや鉄道等の交通手段の検索・予約・決済を一連のサービスとして捉える考え方

※3 アーバンデザインセンター：「公・民・学」が連携してまちづくりの課題解決に取り組む組織

※4 スマートシティ：都市や地域が抱える様々な課題に対して、人工知能などの新技術を活用して計画、整備、管理・運営等のマネジメントが行われた持続可能な都市・地区

第2項 魅力ある住生活環境の確保

重点的に取り組む事業									
(1) 定住・移住の促進（子育て世代の定住支援，移住希望者の住宅取得支援，定住サポートセンターの充実，子育て世帯を対象とした安芸灘大橋利用助成，外国人住民の相談体制の強化（総合相談窓口の開設等）など） (2) 空き家の有効活用（空き家家財道具等処分支援，学生シェアハウス支援，空き家バンクの充実など） (3) 環境に配慮した生活空間の整備（家庭用燃料電池（エネファーム等）の普及促進，廃棄物の適正処理） (4) 「呉らしさ」の情報発信（呉の魅力発信など）									
目指すべき姿(目標)									
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	R元	累計	達成率	
空き家バンク登録物件の成約件数（累計）	64→200（136増） (R元年度改定で140から200に変更)	件	83	114	145	176	112	82.4%	
定住サポートセンターへの問合せ件数（累計）	467→1,500（1,033増） (R2年度改定で1,500から1,700に変更)	件	821	1,089	1,260	1,528	1,061	102.7%	
家庭用燃料電池設置件数（累計）	124→524（400増）	件	148	172	191	216	92	23.0%	
一般廃棄物の排出量	H27年度(77,773)比5%削減	t	2%減 (76,042)	3%減 (75,828)	5%減 (74,107)	R2.7 公表予定	—	—	
評価	現状								
○	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンク登録物件の成約件数は，令和元年度改定時に目標値を140から200に上方修正した。令和元年度末の実績は176件と順調に伸びている。 定住サポートセンターへの問合せ件数は，順調に伸び目標を達成した。 家庭用燃料電池設置件数の実績の累計は92件と目標を下回っている。 一般廃棄物の排出量は，平成30年度は削減目標を達成し，順調に推移している。 公式キャラクター「呉氏」による，関連動画再生回数は累計100万7千回，キャラクターグッズは29社から121種類（令和2年3月末時点）が発売され，呉市の魅力発信につながっている。 								
令和2年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 移住希望者が安心して他都市から移住できるよう，希望者の目線に立った移住関連情報の提供や，移住先での情報交換・交流ができる場の提供，移住者同士をつなぐ交流ネットワークの構築など，きめ細やかにニーズに対応するための環境の充実を図っていく。 市内外の新婚・子育て世帯や定住・移住希望者が，住宅を買いたい，借りたいと思える環境を整えるため，交通や買い物等，生活の便利な地域にマンションや宅地などの分譲・賃貸の流通促進を図っていく。 市民の呉市への愛着・誇りの醸成と関係・交流人口の増加を図るため，公式キャラクター呉氏の発信力を積極的に活用し，SNS※など世界とつながる情報発信ツールを利用して，呉の認知度・魅力度向上に取り組んでいく。 地元製品の新たな魅力発信とふるさと納税を安定した財源とするため，新たな返礼品の掘り起こしに取り組む。 									

※ SNS：Social Networking Serviceの略：登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。